

すべての回に協同学習を用いた「救急看護学」の授業で得た成果

牧野典子・江尻晴美・中山奈津紀（中部大学）

キーワード：協同学習、救急看護学、LTD 話し合い学習法、予習

【はじめに】 看護系大学において、看護専門科目の授業に協同学習を取り入れ専門的な知識・技術の習得をグループの力で達成し学びあうことによるさまざまな教育効果が報告されている（山本，2004；常盤ら，2006；牧野，2011）。山本（2004）はLTD 話し合い学習法の導入による自己教育力の向上を明らかにし、常盤ら（2006）はPBL チュートリアル教育の効果をクリティカルシンキングの変化により示している。また、牧野（2011）はグループ・インベスティゲーション（以下、GI と略す）の導入前後で協同作業の認識、自己教育力、自尊感情、自己効力感の向上があったことを報告している。これらの報告は、授業すべてに協同学習を取り入れたものは少なく、一部に導入した極短期の変化で効果を測っている。本研究の目的は、すべての回に協同学習の活動を実施した昨年及び今年度の授業と、授業後半6回分のみ導入した2009・2010年度とを比較して、認知的側面、情緒的側面、精神運動的側面の効果と課題を明らかにすることである。

【授業の概要】 看護学部のカリキュラムには生命の危機状態にある人への救命及び治療過程における援助方法を習得する専門科目「救急看護学」がある。この科目は2年次生が履修する30時間2単位の必修科目で、講義だけでなく学内実習も行って緊急時の対応を学習する。今年度（2015年度）の受講生は108名で、1年次に解剖学、生理学、病理学、薬理学などの専門基礎科目と看護学概論を受講しており、本科目の基礎学力を修得している。

表1に2014及び2015年度の授業各回の学習内容と協同学習活動をまとめた。初回には協同学習の考え方とLTD 話し合い学習法について説明し、LTD 過程プラン（予習用とミーティング用）を「急性期看護」に関する説明文を読んで実際に演習を行った。またグループ編成も行い、これからの授業でミーティングを行うグループのメンバー同士の自己紹介を行った。また、講義を行う日は、学生が事前学習として「わからない用語調べ」を行って授業に臨み、講義の前にグループで共有し説明できない用語を特定した。第4回と第7回の授業では授業の最初と最後にミニテストを実施して専門用語の理解度を確認した。

【結果と考察】 認知的側面の効果を筆記試験の結果で示した（図1）。授業のすべての回に協同学習を導入した2014年と2015年は、Aランク以上の学生の割合が多くなり、一部にGIを導入した年に存在したDランク（60点未満）の学生は出ていない。予習を生かした授業の工夫や、毎回の授業での小グループ活動との関連が示唆された。発表当日には情

緒的側面、精神運動的側面についても比較し検討した結果を報告する。

表1 「救急看護学」授業の概要

回	授 業	導入した協同学習
1	ガイダンス、健康レベルにおける急性期とはグループ編成、自己紹介	LTD 話し合い学習法 (LTD)、ラウンドロビン (RL)、ミラーリング
2	プレ・ホスピタルケアと一次救命処置	LTD、ジグソー
3	プレ・ホスピタルケアと二次救命処置	LTD、シンク・ペア・ライト・シェア (TPWS)
4	気胸を発症した患者の治療処置と看護	予習、ミニテスト、講義、TPWS
5	学内実習：酸素吸入療法、気管挿管	予習 (ワークシート)
6	シミュレーション学習	RL
7	広範囲熱傷患者の治療処置と看護	予習、ミニテスト、講義、TPWS
8	急性心筋梗塞患者の検査・治療・処置と看護	予習、講義、TPWS
9	救急外来と集中治療室における看護	予習、講義、TPWS
10	クモ膜下出血患者の検査・治療・処置と看護	予習、講義、TPWS
11	フライトナースの特別講義	予習
12	グループワーク	
13	テーマ「救急事例の緊急時マニュアルをつくろう」	グループ・インベスティゲーション (GI)
14	成果の発表	
15	グループワークの成績発表、まとめ、筆記試験	

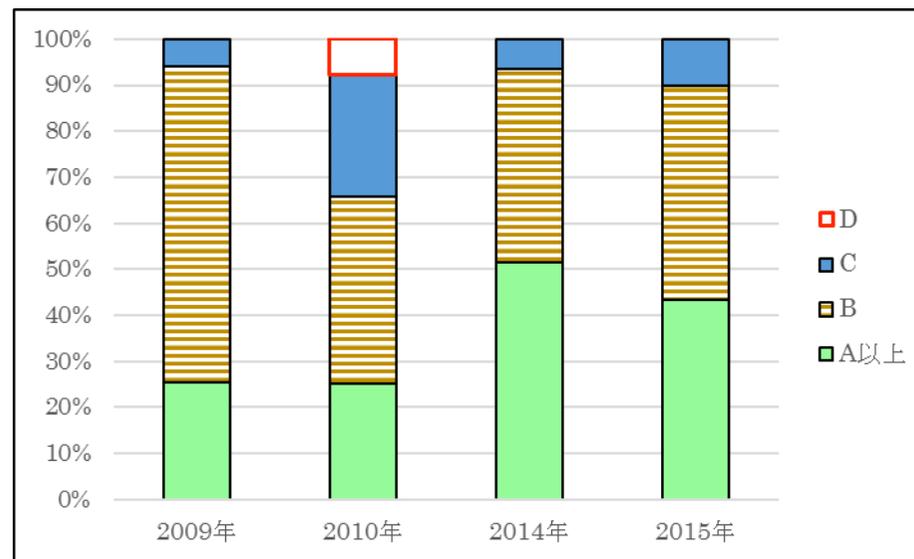


図1 筆記試験結果の年度別比較